伊勢原市 No.160遺跡

現地見学会資料

財団法人　かながわ考古学財団

----2007.11.10----

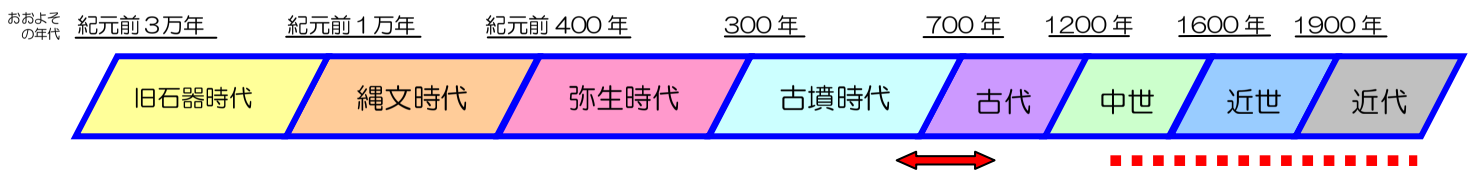
当財団では、中日本高速道路株式会社が計画する第二東名高速道路建設に伴う事前調査として、平成 19 年４月より埋蔵文化財の発掘調査を実施しています。

今回見学会でご案内いたします伊勢原市 No.160 遺跡は、南北２km にわたって広がる広範囲の遺物散布地で、多くの時代の遺跡が残されていることとして知られています。

現在行っている発掘調査は、伊勢原市 No.160 遺跡の中でも緩やかに傾斜した丘陵の西斜面を対象として行っています。

これまでの調査によって、古墳時代の末から平安時代にかけての集落のあとが発見され、沢山の遺物が出土しました。今日はその一部を紹介いたします。

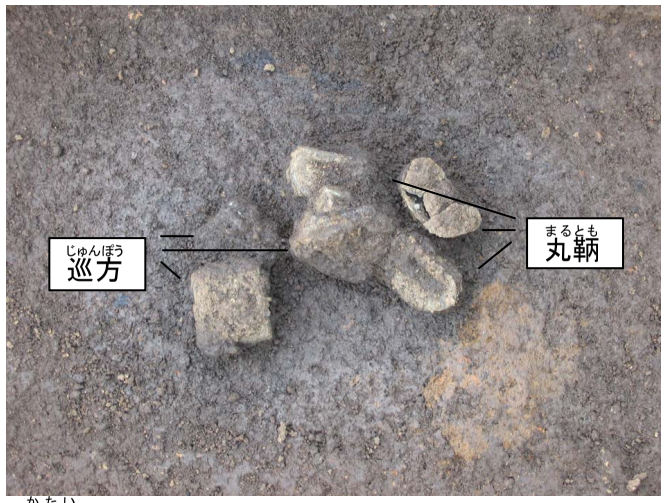
——調査区の全景（北東から 2007.8）———



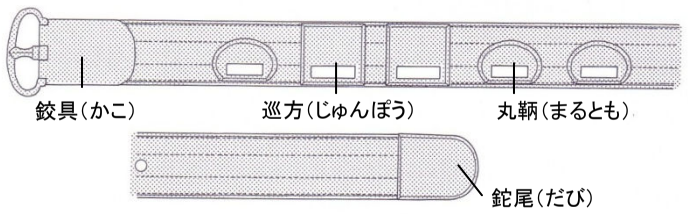
※矢印と点線は、今回の調査で発見された遺構や遺物のおおよその時期を示しています。

——出土遺物——

銅製銙帯金具（帯金具）



銙帯出土状況（左）と、付着した土を除去した状態（右）



銙帯（腰革帯）と銙帯金具の例

H19 号竪穴住居の中から、銅製の銙帯金具が 10 点まとまった状態で出土しました。見つかったのは竪穴住居の壁際です。竪穴住居は調査範囲東側の山のふもとに位置しています。

この竪穴住居は、裏面の地図に青色で示したとおり、奈良時代のものであることが分かっています。

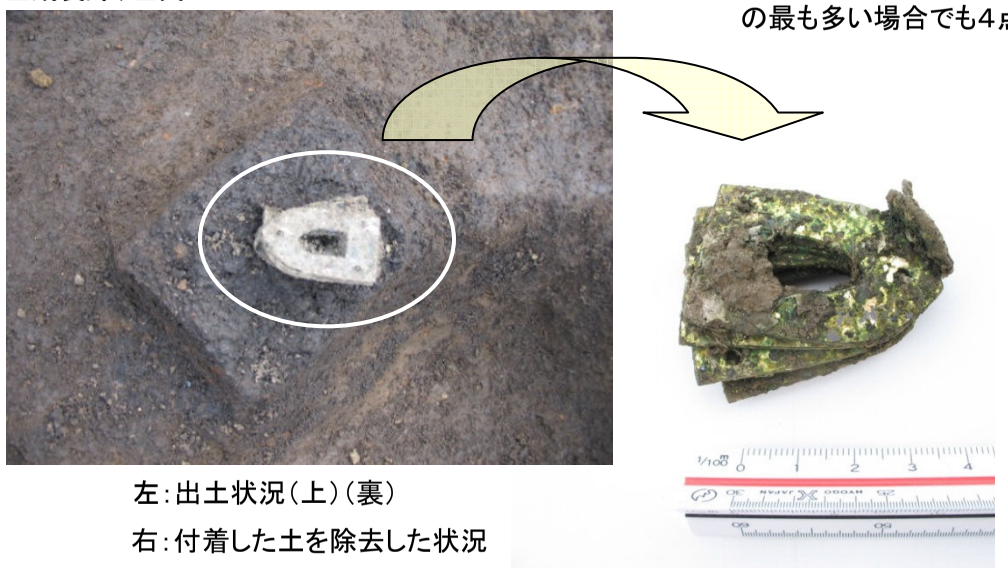
銙帯金具（かたいかなぐ）とは、

古代の役人や貴族が儀式等の際に着用した腰革帯に取り付けられる各種金具のことです。

銙帯金具のうち、巡方（じゅんぽう）が４点、丸鞆（まるとも）が６点出土しました。

県内ではまとまって出土した例は少なく、これまでの最も多い場合でも４点でした。

金銅製飾り金具



左：出土状況（上）（裏）

右：付着した土を除去した状況

H3 号竪穴住居の床の上から、金銅製の飾り金具が出土しました。

薄い板状の金具が８枚重なってくっついた状態で出土しています。

飾り金具であることは判明しましたが、これからこの金具がどのようなものを飾り付けていたものか詳しく調べる必要があります。

さまざまな土器の出土状況

財団法人
かながわ考古学財団
〒232-0033
神奈川県横浜市南区中村町 3-191-1
TEL：045-252-8689
ホームページ：http://www.kaf.or.jp/

発見遺構と出土遺物（11 月 1 日現在）

――発見遺構――

中・近世:地下式坑1基、道状遺構1条、溝状遺構2条、土坑 51 基、ピット 88 基、柵列1列、段切2基、畝状遺構 12 基

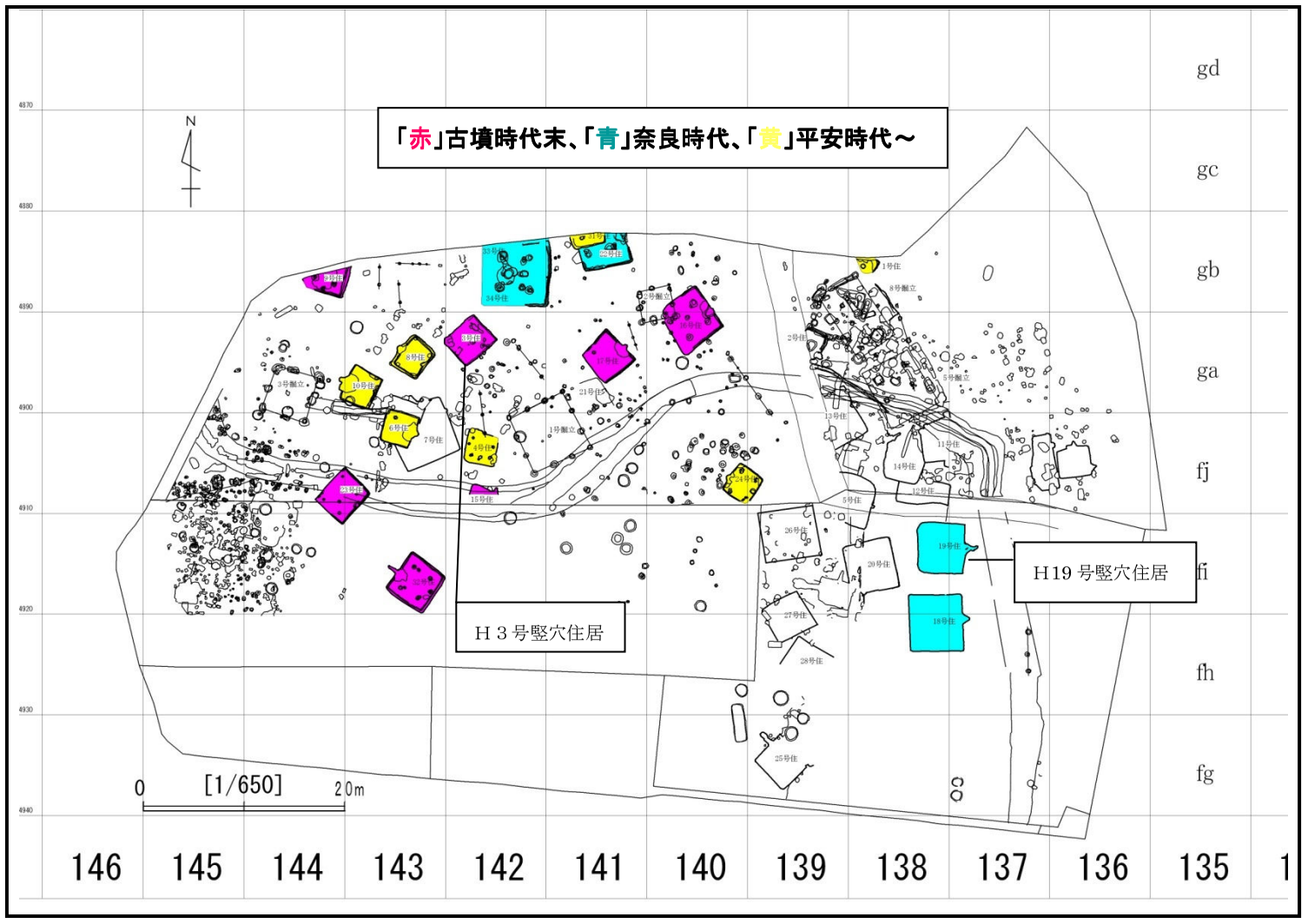
古代（奈良・平安時代）:竪穴住居 36 軒、竪穴状遺構1基、掘立柱建物 10 棟、土坑 21 基、ピット 500 基以上

――出土遺物――

中・近世:陶磁器・かわらけ

古代（奈良・平安時代）:土師器、須恵器、灰釉陶器、銅製品（鈴帯金具・・・巡方・丸鞆）、金銅製品（飾り金具）、鉄製品（刀子）、石製品（砥石）、土製品（土錘）

遺跡の位置

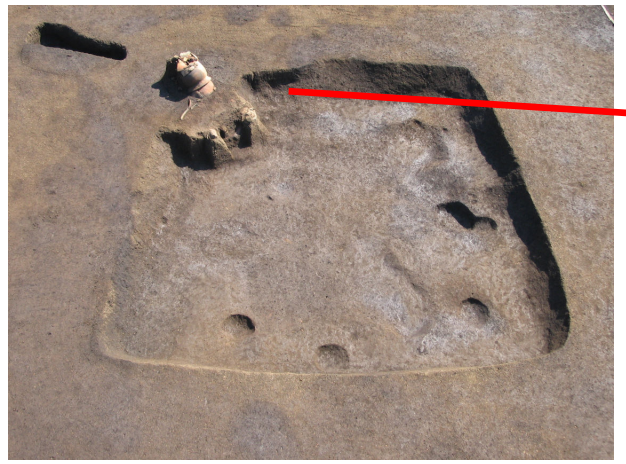


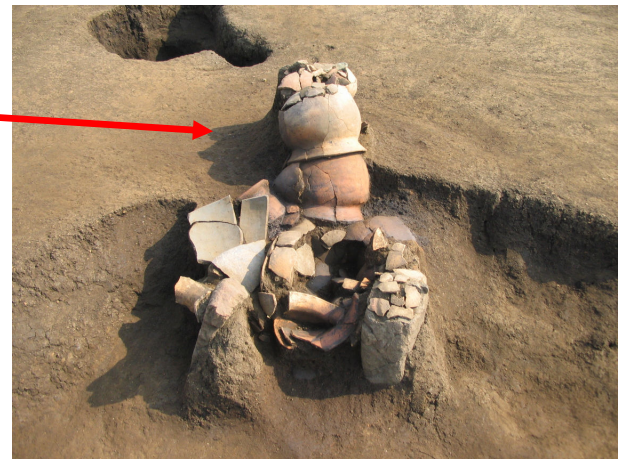
現在調査中の地点の遺構配置図

――発見遺構――

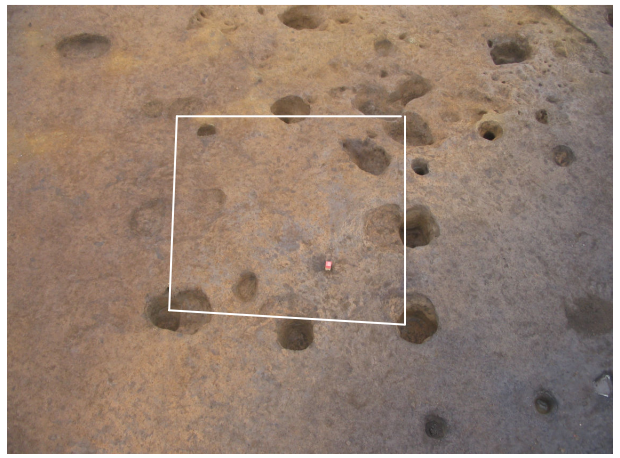
H32 号竪穴住居（古墳時代末）

H10 号竪穴住居（平安時代～）

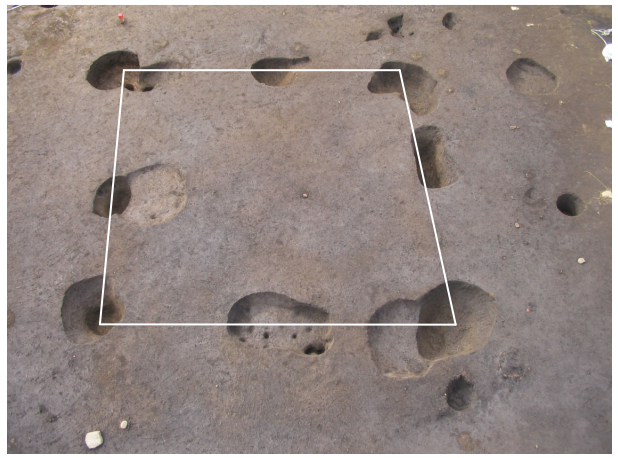




Ｈ４号竪穴住居（左）とそのカマド（右）です。煙突の役目をした土器が残されていました。



Ｈ２号掘立建物



Ｈ３号掘立建物

検出された代表的な遺構としては、竪穴住居と掘立柱建物の2種類がみられます。

竪穴住居は地面を方形に掘り下げて床を作り、住居の床や壁際などからは柱を立て、壁沿いにはカマドがしつらえられた、半地下式の住まいとして建てられたものです。

一方掘立柱建物は、地面に柱を立てるための穴を掘り、立てた柱を基に上屋を作っていました。

カマドがないことなどから、この掘立柱建物が倉庫として使われていたものか、地面に穴を掘り込まない平地式の住まいであったものかはよく分かっていません。

もしかしたらその時々で必要に応じて倉庫であったり、住まいであったりしたのかもしれません。

左の遺構配置図を見てください。

これらの遺構はそれぞれの時期ごとでおおむね同じ方向を向いていることがわかります。